

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入しなさい。

歴史上の諸民族はこれまで様々な仕方で自らの過去や異文化の文物を分類・保存し記憶にとどめようとしてきたが、そこには自らの国や社会のアイデンティティを形成しようとする目的があった。

なかでも大規模に行われ、記録上最も古くまでさかのぼれる事例は、プトレマイオス朝エジプトの首都アレクサンドリアにあった（ A ）である。この施設はアレクサンドロス大王東方遠征後に展開したヘレニズム文化の中心となった。ちなみにその名称はミュージアムの語源にあたり、元々は古代ギリシアの学芸の女神ムーサイ（英：ミューズ）に捧げられた祭壇を意味していた。その付属図書館には多くの写字生がおり、アレクサンドリアに寄港する船から所蔵に値すると認められた書物を組織的にパピルス紙に書き写す作業を行っていた。集積された知は文学、数学、地理学、天文学、医学など広範囲に及んだという。また、それは単なる図書館ではなく、研究施設でもあったので、地中海世界各地から学者が集まり研究活動に従事していた。そのなかには平面幾何学の大成者エウクレイデス（英：ユークリッド）、地球の周の長さを算出した（ B ）、「浮体の原理」の発見者で古典古代最大の数学者といわれるアルキメデスもいた。

中世ヨーロッパで組織的に文化を保存した施設はやはり修道院や教会である。修道院では古典古代の書物やその注釈書、聖書をはじめとするキリスト教関係の書物の写本制作が日課になっていたからであるし、教会では「宝物室」で聖遺物などを保管していたからである。たとえば、（ C ）により開かれ「祈り、かつ働け」を標語に掲げた会派のザンクト・ガレン修道院の図書館はとりわけ有名である。また、とくに12世紀以降、農村にあった修道院とは別に、主として都市で発展した学校を基礎に誕生した中世の大学は、十字軍や交易を通じて、またスペインやシチリアでの翻訳活動を通じて流入した、古代ギリシアの原典やイスラーム学者による注釈書を取り入れた学問研究にも場を提供し、スコラ学の機関として成長し、伝統を教えるばかりでなく新しい知を醸成する土壌ともなった。たとえば、パリ大学で教え『神学大全』を著したトマス・アキナスは信仰と理性の統合を試みた。信仰と理性を分離する近代的思考の先駆けともいわれる（ D ）を展開したウィリアム・オブ・オックサムもオックスフォード大学で学んでいる。

中世末期の教皇権の弱体化、地中海貿易の活性化を背景に、イタリア・トスカナを中心に人間存在や世俗の活動を肯定的にとらえる思想や文化が花開くことになる。ルネサンスと呼ばれる文化革新運動である。これは、詩人ペトラルカに見られるように、キケロなど古代の学芸に学びつつ、社会と人間についての新しい思想を作り上げた運動だった。この運動の精神は人文主義（英：ヒューマニズム）と呼ばれ、その息吹は、理性的な遠近法と感情豊かな表現をうまく統合した美術、たとえば、ドナテッロの彫刻やレオナルド・ダ・ヴィンチやラファエロの絵画に現れているし、古代ローマの建築に

学びフィレンツェのサンタ・マリア大聖堂のドームを完成させた（ E ）の仕事に感じることができ。また、人文主義の思想は、人間の自由意志を強調するピコ・デラ・ミランダ『人間の尊厳について』や、政治と宗教を分離する近代的政治観の先駆けといってよいマキャヴェリ『君主論』などにも現れている。ところで、ここでも興味深いのは、こうした近代を用意した新しい文化・思想運動が、古代の学芸の収集、保存、翻訳、異文化交流と密接に結びついていた点である。たとえば、フィレンツェでは、（ F ）という人物がパトロンとなって、積極的にビザンツ帝国の学者との交流が行われ、この環境のもと、人文主義者サークルであるプラトン・アカデミーの中心人物だったフィチーノは、それまで『ティマイオス』を除き完全な形ではほとんど知られていなかったプラトンの諸著作をラテン語に訳している。

その後、近世絶対王政期においても、動植物や鉱石などの自然物と並んで、貴重な写本や高価な物品、過去や異文化地域（たとえば、植民地化された中南米やアジア）の珍しい文物が、王侯貴族によって収集され続けた。しかし、多くの場合それらは、富の蓄積や権力の誇示を目的にしていたか、神が創造した世界の卓越性と不可思議さを探求するため、もしくは王侯貴族の個人的教養のため集められたものだった。こうしたコレクションはまだ公共的性格をもつには至らなかったのである。

市民階級が意識的に過去や異文化地域の文物を自分が生きている時代や自文化に向き合う手段として利用するようになるのは、ヨーロッパが市民革命を経て市民社会を成熟させていく18世紀、いわゆる「啓蒙の世紀」以降のことである。イギリスでは、責任内閣制が確立しつつあった時期、博物館法が可決され、ハンス・スローン卿のコレクションが買い取られた。こうして設立された大英博物館は、1759年の開館以来コレクションを増やし続け、いまでは世界最大のミュージアムのひとつとなっている。しかも、このミュージアムは開館当時以来、一貫して入館無料を堅持し、広い市民層の啓蒙に貢献しようとしている。フランスではフランス革命下の1793年、王侯貴族や教会のコレクションから没収された美術品の一般公開が（ G ）と称する議会で決議され、新しい文化の形成を目的とした機関が設立されることになった。数多くの名作を所蔵する世界有数の美術館であるルーブル美術館はこうして誕生した。革命期の指導者たちは、革命理念を若い世代へ伝えるため、コンドルセ教育計画案に見られるような公教育制度を考案する一方、成人の再教育のための啓蒙活動や宣伝、そして革命祭典なども考え出したが、ルーブル美術館設立もこうした教育文化政策に並ぶものであったといえる。ドイツ語圏ではナポレオン戦争後かなり経った1830年、プロイセン王国のフリードリヒ・ヴィルヘルム3世によってベルリンにアルテス・ムゼウム（英：オールド・ミュージアム）が、（ H ）王国ではルートヴィヒ1世によってミュンヘンにグリュプトテーク（彫刻美術館）が建設されている。どちらも王家の古代彫刻コレクションを元に行っているが、一般公開を目的としたミュージアムである。このように近代ミュージアムは、近代社会を支える市民の啓蒙を目的に設立されたのだが、興味深いのは、ここで取り上げたミュージアムの多くがギリシア神殿様式を採用し、古代ギリシア彫刻が規範性をもって重視されている点である。とくに1806年ナポレオンのライン同盟結成により西南ドイツ16

邦が離脱し神聖ローマ帝国が崩壊した後も諸邦分立が続いたドイツ語圏では、ナポレオン侵攻によって思い知らされた社会の後進性を克服しようとする改革の試みのなかで、また、ラテン文化の正統な継承者を自認するフランスへの対抗心からも、「帝国」ではなく「都市国家（ポリス）」で人間性を十分開花させたと当時理解されていた古代ギリシアの学芸に、新しいドイツ人を形成していく指針が求められたのである。

「長い19世紀」も後半に入ると、過去や異文化との取り組み方はその複雑さを増していく。国民国家の成立、帝国主義競争、植民地主義、産業革命、労働者問題、自然科学の発展、近代歴史学・美術史・民俗学・民族学の誕生などを背景に、ミュージアムも、美術史美術館、美術工芸博物館、歴史博物館、民族学博物館、郷土博物館、科学技術博物館などへ専門分化し、それぞれの領域で過去の専門的で学問的な展示が主流となってくる一方、他国との比較のなかで自国の歴史や文化を誇示するナショナリズムを国民に浸透させる役割も担っていくことになったからである。

20世紀に入ると人類は、史上初の総力戦だった第一次世界大戦、そして第二次世界大戦を経験する。それとともに過去との向き合い方も変化してくる。たとえば、第二次世界大戦後のドイツにおいては、ナチ党、正式には（ I ）の政権によって主導されたホロコーストなどの蛮行を記憶にとどめようとするミュージアム（たとえば、強制収容所博物館）や平和と慰霊のモニュメントなどが作られ、戦争の悲惨さと平和の尊さを想起する場となっている。

21世紀に入り、新しいものがすぐ古くなる速度が急速に増してきているが、それと一見逆行するかのように過去を保存しようとする傾向も年々強まっている。たとえば、1972年の国際連合教育科学文化機関（UNESCO）総会で採択された条約に基づき、人類が共有すべき「顕著で普遍的価値」をもつ物件として1978年に初めての認定が行われた（ J ）がその後も増え続けているところにそれは現れている。また、デジタル・メディアによるアーカイヴのヴァーチャル化も含め、人類の過去との取り組みはこれまでとは異なる次元に移行しつつあるといえよう。

Ⅱ 以下の史料1～4を読み、(1)～(15)の各設問に答えなさい。

- 1 もし余か、余の大判官、余の代官、あるいは余の官吏のいずれかが、誰かに対して何事かにおいて加害したか、または平和あるいは保障条項のいずれかを犯し、その違反が上述の25人の諸侯のなかの4人の諸侯に明示されるならば、この4人の諸侯は、余、または余が王国外にいる時は余の大判官のもとにおもむき、違反を余に示し、余がこの違反を遅滞なく改めることを求めるものとする。そして、余、または余が王国外にいる時は余の大判官が、余、または余が王国外にいる時には余の大判官に違反が示された時から40日以内に、この違反を改めないならば、上述の4人の諸侯は、このことを上述の25人の諸侯の残りの人々に通告し、これら25人の諸侯は、全国土の一般の人々とともに、彼らに可能なあらゆる方法で、余を「城や土地や所有物の」差し押さえによって強制し苦しめるものとする。

設問(1) これは17世紀になってある法学者が取り上げて以来、イギリスの歴史において非常に重要であると見なされてきた文書の一部である。この文書全体は何と呼ばれているか。

設問(2) 文書中「余」にあたるイギリス王は誰か。

設問(3) この王がこの文書に署名したのは西暦何年か。数字で答えなさい。

設問(4) この王はカンタベリ大司教の選任をめぐってローマ教皇と争っている。この王と争って王を破門し臣従させたローマ教皇は誰か。

- 2 議会の貴族院と庶民院は、……古き良き権利と自由を守り主張するために、次のように宣言する。議会の同意なくして王の権威によって、法を停止したり執行したりすることができると主張する権力は法に反する。そして、最近に主張され実行されたように、王の権威によって、法の適用を勝手に免じたり執行したりすることができるとする権力は法に反する。……そして、議会の承認なくして、君主大権を主張することによって、議会が認めた期間より長く、かつ議会が認めた方法以外の方法で、王が使用するために税を課するのは法に反する。

設問(5) これはイギリス議会が可決し、その後王が認めて発布された文書であり、イギリスの歴史において非常に重要な文書の一部である。この文書全体は何と呼ばれているか。

設問(6) 上記史料中で「法に反する」として議会が非難している統治行為を行い、その結果として議会から見れば王位を空位にしたとされた君主は誰か。

設問(7) この文書を承認して設問(6)の君主の後に即位した君主は誰か。

3 全世界の将来の平和と方針がかかっている問いは、現下の戦争が正義にかなっていて安定した平和のための戦争であるのか、それとも単に新しい勢力均衡のための戦争にすぎないのか、ということです。もしこの戦争が、新しい勢力均衡のための戦争でしかないのであれば、誰が新しい[国際的]枠組みの安定を保障できるのでしょうか。平穏なヨーロッパのみが安定したヨーロッパをもたらします。必要とされているのは、勢力の均衡ではなく、一個の勢力の共同体であり、組織的な敵対関係ではなく、組織された共通の平和です。

設問（8）これはアメリカ合衆国大統領が合衆国議会上院で行った演説の一部である。この大統領は誰か。

設問（9）この演説が問題としている戦争の後に成立したヨーロッパの国際的秩序は何と呼ばれているか。

設問（10）この大統領はアメリカ流の民主主義を広めることが合衆国の使命であるという幻想をもち、とくにラテンアメリカ諸国に積極的に介入した。この大統領のラテンアメリカ外交は、総じて何と呼ばれているか。

設問（11）この大統領は内政では資本主義の行き過ぎによる大企業の利益追求を抑制し、社会的に中・下層の人々のための改革を行った。この大統領はこうした内政政策をスローガンとして何と呼んだか。

4 自由の敵がわれわれの国に戦争をしかけてきました。われわれアメリカ人は戦争を経験してきました。しかし、（ ）年のある日曜日を別とすれば、過去136年間、戦争は外国で行われました。われわれアメリカ人は戦争によって[アメリカ人の]犠牲者を出してきました。しかし、穏やかな朝に巨大都市の中心で犠牲者を出したことはありません。われわれアメリカ人は奇襲攻撃を受けたことがあります、無数の一般市民の目の前で受けたことはありません。こうしたことが、たったの一日でわれわれの身にふりかかり、一夜にして世界が変わりました。いまや自由そのものが攻撃を受ける世界になったのです。

設問（12）これはアメリカ合衆国大統領が合衆国議会上下両院で行った演説の一部である。この大統領は誰か。

設問（13）演説中の「戦争をしかけてきました」とは何を指した表現か。

設問（14）「戦争をしかけて」きた集団は何と呼ばれているか。

設問（15）演説中の（ ）に入るべき数字を答えなさい。

Ⅲ 以下の歴史上の人物に関する文章 1～5 を読み、空欄（ A ）～（ E ）に最も適切な語句を漢字で記入し、かつ（ 1 ）～（ 5 ）の各設問に答えなさい。

1 荀子は戦国時代の趙の思想家である。春秋時代末期以降、周王朝が次第に求心力を弱めるなか、諸侯たちが中国全土に並び立ち、力を競い合った。国力強化の方策の一つとして、各国は身分・出身にかかわらず有能な人材を広く求めたため、諸国間を遊説して回る思想家が輩出した。彼らは諸子百家と呼ばれている。『漢書』芸文志では、主たる思想流派として、「儒家・道家・陰陽家・法家・名家・（ A ）・縦横家・雑家・農家・小説家」の十家を挙げている。荀子は（ ① ）と説く者と同じ流派に属すとされ、孟子の性善説に対抗して性悪説を唱えたことで知られる。人の性について、荀子はこう述べている。

人の性は悪なり、其の善なる者は偽なり。今、人の性は、生まれながらにして利を好むこと有り。  
是にこれしたが順う、故に争奪生じて辞讓亡ぶ。

——人間の生まれながらの本性は悪であり、その善なるものは後天的な人為によるものだ。いま人の本性というものを考えてみると、人は生まれながらにして利を好む性質がある。したがってそのままに生きていくと、争奪が起き、譲り合いの心がなくなる。彼はそのような問題多い人の性を礼という人為によって抑えなければならないという。

2 項羽は秦末の武将である。前206年、秦の子嬰を一族もろとも殺し、都の<sup>(a)</sup>咸陽を焼き払った。こうして秦を滅ぼした後、楚を再興し、自らは「西楚の霸王」と名乗って天下に号令するが、やがて漢王劉邦との間で熾烈な勢力争いが始まる。一進一退の攻防の末、有能な臣下たちに支えられた劉邦が優位に立ち、ついに項羽を垓下に包囲する。四面楚歌に陥った項羽は漢軍の追撃を逃れて烏江のほとりまで落ち延びる。そこで亭長が江を渡るよう促すが、項羽はそれを潔しとせず、肉薄戦の末に自ら首を刎ねる。兵法に精通していた晩唐の杜牧は、「烏江亭に題す」という七言絶句のなかで次のように詠む。

勝敗兵家事不期 包羞忍恥是男兒 勝敗は兵家事期せず 羞を包み恥を忍ぶは是れ男兒  
江東子弟多才俊 卷土重来未可知 <sup>(b)</sup>江東の子弟才俊多し 卷土重来未だ知るべからず

——戦をする者にとって勝敗は予測しがたい。恥を耐え忍んでこそ真の男というものだ。江東の若者には優れた人材が多い。土を巻く勢いで再び立ち上がって戦ったなら、結果はどうなっていたかわからない。

後世、唐宋八大家の一人で宰相となり財政改革を断行した（ B ）は、杜牧の詩に和して、「江東の子弟、今在りと雖も、肯いふどえて君王と与あに土を巻きて来たらんや」と詠み、項羽が江を渡ったとしても彼らは果たして項羽のために戦っただろうかと懐疑的な見方をしている。

- 3 晁衡は朝衡ともいい、遣唐使の一員として中国に渡った（ C ）の中国名である。入唐以来太学で学問を修めて役人となり、（ ② ）の厚い信任を得た。『旧唐書』や『新唐書』に名があり、また現在はその記念碑もある。753年、藤原清河の帰国船に乗って日本に向かうが、彼の乗った船が難破した。彼が溺死したという噂が流れたため、交遊のあった李白は「晁卿衡を哭す」と題する詩を作り、次のように詠んでいる。

日本晁卿辞帝都 征帆一片繞蓬壺      日本の晁卿 <sup>(c)</sup>帝都を辞し 征帆一片 蓬壺を繞る  
明月不歸沈碧海 白雲愁色滿蒼梧      明月は歸らず 碧海に沈み 白雲愁色 蒼梧に満つ

——日本の晁衡は都に別れを告げ、ひとひらの帆船は東海に浮かぶ蓬萊山をめぐる去った。

明月珠（真珠）のごとき君は故郷に帰り着くことなく、青海原に沈んでしまった。その後には白雲が愁いを帯びて、南方の蒼梧の辺りに漂うばかり。

晁衡の死を悼んだものであるが、実は噂は誤伝であり、晁衡はその後無事都に戻り、唐土にて没した。晁衡は李白のほかにも数多くの詩人たちと交わっており、「君に勧む更に尽くせ一杯の酒、西のかた陽関を出ずれば故人無からん」の詩で有名な（ D ）もその一人であった。

- 4 朱熹は南宋の儒学者である。朱熹自身がその開祖として高く評価した北宋の（ E ）やその後継者たちの学説を総合して宋学と呼ばれる新儒教を大成した。彼は従来の儒教が基本経典としてきた五経よりも、『論語』と『孟子』に『礼記』の二篇である『大学』と『中庸』を加えた四つのテキストを重視し、それを「四書」と称して注釈書を著わした。読書による聖人の教えの習得と自己修養の実現を説く思想は新興知識人たちに歓迎され、以後安定した体制教学として発展した。一説に朱熹の作とされる詩には、

少年易老学難成 一寸光陰不可輕      少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず  
未覚池塘春草夢 階前梧葉已秋声      未だ覚めず 池塘春草の夢 階前の梧葉<sup>すで</sup>已に秋声

——自分はまだ若いと思っていてもすぐに年老いてしまい、学問は成し遂げがたくなる。それゆえ寸暇を惜しんで学問に打ち込まねばならない。池塘に萌える春の若草のような夢がまだ覚めきれないうちに階<sup>きざし</sup>の前の梧葉にはもはや秋風が吹いてくるものだ。

とあり、若い時に学問を身につけることの大切さが語られている。

- 5 呉三桂は明末清初の武将である。明の総兵官として<sup>(d)</sup>山海関に駐屯し、清軍の侵攻を防ぐ任務に当たっていた。その時、李自成が北京を陥れ、崇禎帝が紫禁城の裏山で自害するという大事件が起こった。知らせを受けた呉三桂は進退窮まり、李自成討伐の支援を乞うことを名目に清に投降する道を選んだ。その結果、清はそれまで難攻不落であった関所を呉三桂の先導のもと容易に突破し、

北京入城を果たすことができた。同時代の詩人呉偉業は「円円曲」という詩のなかで呉三桂がとった行動に対し以下のように痛烈に皮肉っている。

鼎湖当日棄人間	鼎湖当日人間 <sup>にんげん</sup> を棄 <sup>す</sup> つ
破敵収京下玉関	敵 <sup>てい</sup> を破 <sup>やぶ</sup> り京 <sup>けい</sup> を収めんとして玉関を下る
慟哭六軍俱縞素	慟哭六軍 俱 <sup>とも</sup> に縞素
衝冠一怒為紅顔	冠 <sup>かん</sup> を衝いて一怒するは紅顔の為なり

——その日、帝が逝去されたとの知らせを受け、呉三桂は敵を破り、都を奪還しようと、山海関を下った。全軍はみな慟哭して喪に服したが、呉三桂が怒髪冠をつきあげるほどに激怒したのは紅顔の美女陳円円のためだった。

つまり呉三桂が積極的に清の北京入城を許したのは愛妾が李自成の部下に奪われたことが主原因だったというのである。真相は案外こんなところにあったのかもしれない。

設問（１） １の文中の①にあてはまるものを以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「無為を為せば、すなわち治まらざるなし」
- イ 「賞罰信ならず。故に士民死せざるなり」
- ウ 「君子は仁を去りて、いずくにか名を成さん」
- エ 「彼を知り己を知れば、百戦あやうからず」

設問（２） ３の文中の②にあてはまるものを以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 太宗    イ 玄宗    ウ 高宗    エ 中宗

設問（３） ４の文中の朱熹の教えでないものを以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 性即理    イ 致良知    ウ 大義名分論    エ 理気二元論

設問（４） ５の文中の李自成もしくはその集団がとった行動として最もふさわしいものを以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「田を均しくし、三年間の租税を免除する」と約束して民衆の支持を得た。
- イ 「天下大いに乱れ、弥勒下生して明王が現れる」と唱えた。
- ウ 呪いで病を治し、その信奉者に黄色い頭巾を着けさせ、反乱に参加させた。
- エ 「王侯将相いずくんぞ種あらんや」と叫んで、身分や家柄を問題にしなかった。

設問（５） 下線部（a）～（d）が示す場所の位置を現在の省名で表した場合、いずれにも該当しないものを以下から一つ選び、漢字に直して答えなさい。

- せんせい    ふっけん    こうそ    かほく



Ⅳ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入し、かつ下線部（ a ）～（ e ）に関する（ 1 ）～（ 5 ）の各設問に答えなさい。

1812年までの清朝の行政制度を記録した嘉慶『大清会典』には「凡そ四裔の朝貢の国を、朝鮮と曰い、琉球と曰い、越南と曰い、南掌と曰い、暹羅と曰い、蘇禄と曰い、荷蘭と曰い、緬甸と曰い、西洋と曰う」とあり、（ a ）これらの諸国が当時中国の朝貢国として認識されていた。

このうち越南は「嘉慶七年、阮光纘、復た国を失う。農耐の国長阮福映、使いを遣わして表貢を齎進せしむ。……上は其の恭順なるを嘉とし、詔して国号を改めて越南と曰い、始めて阮福映を勅封して越南国王と為す」とある。1802年に阮福映（阮福映）が（ A ）朝を滅ぼして全国を統一した越南は2年後に中国に朝貢してその冊封を受けた。

しかし、19世後半になるとフランスの干渉を受けることが多くなり、1883年と1884年の両年に結ばれた（ B ）条約でその保護国化がはかられた。これに対し宗主権の維持をはかる清はフランスと開戦したが、結局（ C ）条約で宗主権を放棄し、フランスの保護国化を認めることになった。

20世紀になると解放を求める民族運動が起こるも、フランスの弾圧は厳しかった。そうしたなか、ホー・チ・ミンが結成した共産党が運動の中心となり、1945年の日本降伏直後に独立を宣言した。そしてそれは植民地支配の回復をはかり、対抗する政権を南に作ったフランスとの長期戦争を招いた。結果はフランスの敗北に終わった。1954年には休戦協定が結ばれ、南北統一の気運は高まった。

ところが、アメリカの支援を受けたゴ・ディン・ジェムが1955年に南に新たな政権を樹立したため国家統一は果されなかった。その後、（ b ）南では民族の解放をめざす様々な勢力が新米政権の打倒をはかったが、1965年の北爆を機にアメリカが本格的に軍事介入し、戦争は泥沼化した。1973年のパリ和平協定により米軍の撤退が実現した結果、南の政府は崩壊し、1976年に南北がようやく統一した。

統一後は社会主義建設をめざしたが、国際的に孤立して経済危機に見舞われた。そのため1986年からは（ D ）と呼ばれる改革・開放路線を進め、経済の自由化で社会主義による行き詰まりを打開し、市場経済や外国資本の導入をはかり、はじめて安定した国家建設が可能となった。

暹羅は「国朝順治十年、始めて使いを遣わして貢を請わしむ。……乾隆三十一年、緬甸の破る所と為る。四十六年、国人鄭昭、復土報讐し、国王に後無く、鄭昭を推して国長と為すに、使いを遣わして入貢せしむ。五十一年、鄭華を勅封して国王と為す」とある。この国は乾隆31年、すなわち1766年に隣国の緬甸の侵入を受け、その翌年にはアユタヤ朝が滅ぶが、鄭昭ことタークシンが緬甸軍を退け、新たな王朝を開いた。そしてその政権は鄭華ことラーマ1世が1782年に創建した（ E ）朝に引き継がれた。

19世紀後半になると西欧列強の圧迫を受けたが、ラーマ4世は列強間の均衡をはかり、1855年にイギリスと（ F ）条約を結んで門戸を開き独立を維持した。続くラーマ5世は強力な指導力により近代化改革を推進し、中央集権体制を確立した。またラーマ7世はその治世の1932年に立憲革命が起こると、体制を立憲君主制に移し、実権を失うものの、今日まで続く王朝の基礎を築いた。

第二次世界大戦後の1946年に即位したラーマ9世（プーミポン）は社会事業を進め、新民主憲法を公布して、いまなお国民から強い支持がある。1970年代には軍部のクーデタが繰り返し起こり、政情不安が続いたが、80年代末からは経済成長が始まり民主化も期待された。<sup>(c)</sup>1997年に為替自由化を契機にバーツが大幅下落して経済破綻に陥った。現在はそれをなんとか持ちこたえて経済安定を取り戻した。ただ軍部が政治に介入し対立が激化するという問題は未解決のままになっている。

緬甸は「乾隆十五年、国王蟒達喇、始めて陪臣を遣わして表を奉じて入貢せしむ。五十五年、孟隕を勅封して阿瓦緬甸国王と為す」とあるように、（ G ）朝は1750年に朝貢使節を清に派遣したが、まもなくモン族に滅ぼされた。代わってモン族勢力を撃退して再統一を遂げた（ H ）が創建したコンバウン朝はのちに暹羅に侵攻し、前後して清の遠征軍を食い止め、孟隕こと第6代王ボードーパヤーの時に領土を拡大した。その一方、1790年には清から冊封を受け、中国との関係を維持した。

しかし、19世紀になるとイギリスとの間に三度にわたる戦争が起きた。その結果、大方の領土を失って1885年ついに王朝が滅び、清が宗主権を放棄すると英領インドに併合された。

この国の民族運動は1930年末になると本格的な反英独立闘争へと発展した。その中心人物であったアウン・サンは急進的民族主義団体（ I ）を率いて完全独立を要求し、さらに反ファシスト人民自由連盟を組織して日本とも戦った。

1948年に独立を果たしたが、国内の政情は依然安定しなかった。1962年にはネ・ウィンがクーデタを起こし、1980年末まで政権を握って社会主義による独裁を進めた。1988年、反体制運動によってネ・ウィンは失脚したが、再び軍部のクーデタが起こって民主化運動は弾圧され、軍事政権が存続した。<sup>(d)</sup>1989年には国名がミャンマーに改められた。1990年にアウン・サンの娘（ J ）が率いる国民民主連盟（NLD）が選挙で圧勝しても軍事政権はなお民政移管を拒み、彼女の軟禁を繰り返した。しかし、2011年にテイン・セインが大統領になるとようやく民主化実現の機運が到来した。

このように、東南アジア大陸部三国は異なる歴史的背景を担いながらも、中国への隷属、西洋列強による圧迫、民主化の実現という共通の過程を経て、<sup>(e)</sup>現在とともに東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国となり、それぞれがこれまでの対立を乗り越えて連携し、平和協力維持に重要な役割を担うようになった。それは東南アジアの歴史において画期的なことといえる。

設問（1）下線部（a）朝貢国として認識されていた「西洋」の一国の説明に「暎咭喇国と曰う。乾隆五十八年、陪臣を遣わして入貢せしむ」とある。この「陪臣」とは誰か。

設問（2）下線部（b）の「様々な勢力」によって結成された政治運動形態の正式名称を記しなさい。

設問（3）下線部（c）は周辺諸国や韓国にも大きな経済的影響を与えた。その出来事の名称を記しなさい。

設問（4）下線部（d）に関連して、改名前の国名で、一部では現在もなお用い続けられている名称は何か。

設問（5）下線部（e）に関連して、三国のうち1967年の連合発足当初から加盟している国はどこか。現在の国名を記しなさい。

2015(平成27)年度 文学部 一般入学試験問題 訂正

教科・科目	ページ	設問	誤	→	正
世界史	3	I	<p>21行目～23行目</p> <p>フランスではフランス革命下の1793年、王侯貴族や教会のコレクションから没収された美術品の一般公開が（ G ）と称する議会で決議され、新しい文化の形成を目的とした機関が設立されることになった。</p>	→	<p>21行目～23行目</p> <p>フランスではフランス革命下の1791年5月、王家のコレクションをルーブル宮殿へ集中所蔵する法案が（ G ）と称する議会で決議され、1793年8月、新しい文化の形成を目的にコレクションの一般公開が実現した。</p>
	10	IV	<p>本文16行目（下線部(b)の文中）</p> <p>新米政権</p>	→	<p>本文16行目（下線部(b)の文中）</p> <p>親米政権</p>